

ナロンメディカル

指定第二类医薬品
解熱鎮痛薬

◆ナロンメディカルは、痛みの原因となる物質プロスタグランジンの生成をすばやく抑えるイブプロフェンを、1日最大600mg服用できる解熱鎮痛薬で、15種類の痛みに速くよく効きます。■カフェインフリーで、飲みやすい小粒の錠剤です。

効能・効果

- 1)頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・月経痛(生理痛)・外傷痛の鎮痛
□
2)悪寒・発熱時の解熱

用法・用量

症状があらわれた時、次の量をなるべく空腹時をさけて水又はぬるま湯で服用してください。

成人（15歳以上）、1回2錠、1日2回まで

*ただし、再度症状があらわれた場合には3回目を服用できます

服用間隔は4時間以上おいてください

15才未満、服用しないこと

定められた用法・用量を厳守してください。

錠剤の取り出し方

・図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押して裏面のアルミ箔を破り、取り出して服用してください。

・（誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります）

成分及び分量

2錠中

イブプロフェン 200mg

添加物

ヒドロキシプロピルセルロース、無水ケイ酸、セルロース、ヒプロメロース、タルク、ステアリン酸Mg、ポリビニルアルコール(部分けん化物)、酸化チタン、パラフィン、カルナウバロウ、ショ糖脂肪酸エステル、ポリソルベート80

使用上の注意

してはいけないこと

（守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる）

次の人は服用しないでください

本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状（例えば、発疹・発赤、かゆみ等）を起こしたことがある人。

本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人

（ぜんそくを誘発する可能性があります）

15才未満の小児

医療機関で次の病気の治療や医薬品の投与を受けている人

胃・十二指腸潰瘍

血液の病気

肝臓病

腎臓病

心臓病

高血圧

ジドブジン（レトロビル等）を投与中の人

（胃・十二指腸潰瘍、肝臓病、腎臓病の人は、その症状が悪化する可能性があります）

（血液の病気の人は白血球減少、血小板減少等を起こすことがあり、その症状を更に悪化させる可能性があります）

（心臓病の人は、心機能不全が更に悪化する可能性があります）

（高血圧の人は、血圧が更に上昇する可能性があります）

出産予定日12週以内の妊婦

●本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないこと

他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬

服用前後は飲酒しないでください

（一般にアルコールは薬の吸収や代謝を促進することがあり、副作用の発現や毒性を増強することがあることから、重篤な肝障害があらわれることがあります）

●長期連用しないこと

相談すること

●次の人は服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

医師又は歯科医師の治療を受けている人又は次の医薬品を服用している人

クマリン系抗凝血剤（ワルファリン）、アスピリン製剤（抗血小板剤として投与している場合）、リチウム製剤（炭酸リチウム）、チアジド系利尿薬（ヒドロクロチアジド）、ループ利尿薬（フロセミド）、タクロリムス水和物、ニューキノロン系抗菌剤（エノキサシン水和物等）、メトトレキサート、コレステラミン

妊婦又は妊娠していると思われる人。

授乳中の人。

高齢者。

一般に高齢者は、生理機能が低下していることがあるため、副作用があらわれやすい

薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。

次の診断を受けた人又はその病気にかかったことがある人

胃・十二指腸潰瘍

血液の病気

肝臓病

腎臓病

心臓病

高血圧

気管支ぜんそく

(気管支ぜんそくを誘発することがあります)、

全身性エリテマトーデス

腎障害等のこの病気の症状が悪化したり、無菌性髄膜炎があらわれることがあります

混合性結合組織病

無菌性髄膜炎があらわれることがあります

潰瘍性大腸炎

クローン病

症状が悪化したとの報告があります

●服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

皮膚：

発疹・発赤

かゆみ

消化器：

吐き気

嘔吐

食欲不振

胃痛

胃部不快感

胸やけ

腹痛

口内炎

精神神経系：

めまい

眠気

不眠

気分がふさぐ

その他：

目のかすみ

耳なり

動悸

むくみ

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

ショック（アナフィラキシー）：服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。

血液障害：青あざがでやすい、突然の高熱、さむけ、のどの痛み、出血しやすい（歯ぐきの出血、鼻血等）、血が止まりにくい等があらわれる

消化器障害：便が黒くなる、吐血、血便、粘血便（血液・粘液・膿の混じった軟便）等があらわれる

皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群）、中毒性表皮壊死融解症：高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤等が持続したり、急激に悪化する。

腎障害：発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛（節々が痛む）、下痢等があらわれる。

無菌性髄膜炎：首すじのつばりを伴った激しい頭痛、発熱、吐き気・嘔吐等があらわれる。（このような症状は、特に全身性エリテマトーデス又は混合性結合組織病の治療を受けている人で多く報告されている。）

肝機能障害：発熱、かゆみ、発疹、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。

ぜんそく：息をすときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。

服用後、体温が平熱より低くなる、力が出ない（虚脱）、手足が冷たくなる（四肢冷却）などの症状があらわれることがあります。その場合は、直ちに服用を中止し、毛布等で保温し、医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

●服用後、次の症状があらわれることがあるので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

下痢、便秘、口のかわき

3～4回服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この説明書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

保管及び取扱い上の注意

直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。

小児の手のとどかない所に保管してください。

他の容器に入れかえないでください。（誤用の原因になったり品質が変わることがあります）

使用期限を過ぎた製品は服用しないでください。

【OTC医薬品の多言語製品情報提供時に関する免責事項】

- ・本製品は、日本国内での販売及び使用を目的として、日本の医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に基づき承認された医薬品です。
- ・多言語製品情報は、当該製品の日本語の添付文書を翻訳したものであり、あくまで参考情報として提供されるものです。その記載内容及び当該製品自体が日本国外の法規に適合していることを保証するものではありません。
- ・多言語製品情報は、提供者（又は当社）による仮訳であり、今後、予告なしに修正・変更される可能性があります。
- ・多言語製品情報の記載内容に起因して発生した問題については、提供者（又は当社）は一切の責任を負いかねます。